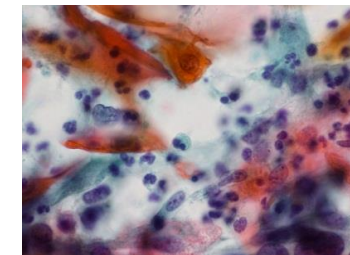




がん細胞を見てみませんか・・・

がん細胞をスクリーニング検査しているのは、細胞検査士です。



扁平上皮癌(子宮頸部)

細胞検査士とは

皆さんは「細胞診」という検査をご存知ですか？ 顕微鏡でがん細胞を探し出す検査が細胞診、そしてそれを担うがん検査の専門職が「細胞検査士」です。細胞検査士の使命は、細胞診断学の普及と技術の向上により国民の健康を守り続けることです。

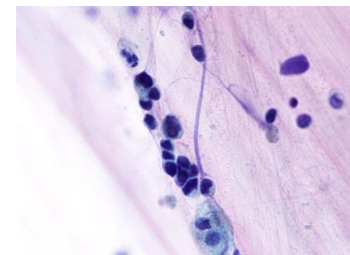
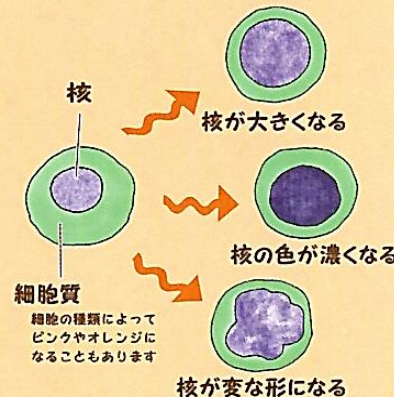


●細胞の顔でがんがわかる！

ほとんどの細胞には、はっきりした色がなく、採られたままの状態では、その形を顕微鏡で観察することができません。そのために、いくつかの薬品を使って色をつける（染色する）必要があります。

細胞診のための染色には、5種類の薬品（色素）が使われ、それによって細胞の「核」は青紫色に、「細胞質」はグリーンやピンク、オレンジに色づけされます。

良い細胞か悪い細胞かを見分けるポイント「核」。良い細胞にくらべて問題のある細胞の核は、大きくなったり、濃く染まったり、変な形をしていたりします。こんな細胞を見つけたら要注意。悪い細胞（がん細胞）の可能性があるので、注意深く観察しなければなりません。



小細胞癌(肺癌)

がん細胞を見つけ出す細胞検査士

細胞検査士は、Cytotechnologist(CT)と呼ばれ、世界中の多くの国々で、日々、顕微鏡を操作しながら、がん細胞を探しています。

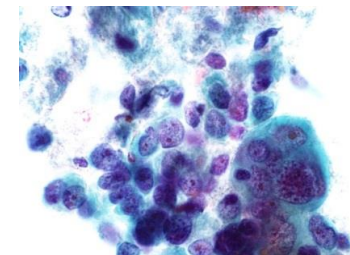
人間の体を形作る細胞は、およそ60兆個。その一つ一つは顕微鏡を使わないと見えない大きさです。そんな小さな細胞が、それぞれに決められた仕事を秩序正しくこなしてくるおかげで、私たちは健康に生活していくことができます。ところが、ときとして秩序を無視するように自由勝手に増え続け、最終的には命をもおびやかす細胞ができてしまう……これが「がん細胞」なのです。

細胞には顔がある、と言うと驚かれるかもしれませんが、もちろん、細胞に目や鼻があるわけではありませんが、私たち細胞検査士は細胞それぞれの顔つき、つまりその形の変化を顕微鏡でとらえ、「良い細胞（良性細胞）」と「悪い細胞（悪性細胞：がん細胞）」を区別したり、たくさんの細胞の中からわずかな数のがん細胞でも見逃すことなく見つけ出すことができます。このような検査が「細胞診」、そして細胞診を担う専門資格を有した臨床検査技師が「細胞検査士」です。



細胞診は体にやさしい検査です

細胞診の特徴は、体に大きな負担をかけることなく、早くて精度の高い検査ができることにあります。たとえば、体から自然に排出されるもの（痰「たん」や尿など）を細胞診の材料（検体）として用いれば、痛みを感じることなく、何度でも繰り返して検査を行うことが可能です。また、子宮がんの検査では、子宮の粘膜を軽くこすって細胞を採りますが、痛みや多量の出血をおこすことは通常ありません。さらに、乳房や甲状腺などの検査では細い針を刺して細胞を採りますが、傷跡が残ることはありません。このように、細胞診はとても体にやさしい検査なのです。そして、集団検診のように、一度にたくさんの人の検査ができることも特徴のひとつです。



充実腺管癌(乳腺)



今や、日本人の2人に1人は一生のうち一度はがんにかかり、3人に1人ががんで亡くなる時代です。

がんの早期発見、早期治療のために検診を受けましょう。

